

例をみない豊富な資料の収集

小松 隆二（慶應義塾大学教授）

世界恐慌の渦巻く一九三〇年代前半に活動した農村青年社は、どこにでもありふれた村、それも零落する田舎の村を足場に、そこを抜け出すことのできない貧しい農民たちを巻き込んだ自主自治のコミュニティ建設運動であった。

この団体の活動の広がりや深さは、アナキズム系の運動事例としてみても、困窮する地方農村の運動事例としてみても、また本格的に戦時体制に突き進む直前の時代の運動事例としてみても、他にその例をみない特異なものである。その点で、現在もお強い興味を引かれる団体であり、活動である。その背後に、あるいは指導的位置には、たしかにアナキズム系の運動家があったが、観念・理念に走りがちな当時の彼らが、それを超えて普通の村の、普通の農民と連帯したことは歴史に残る試みといつてよい。農民たちの方は、足下の村の実態をふまえた村造りに自ら参加し、主役となることで、日常の安楽も将来の希望もなかつた村の生活に、現実性は弱かつたにしろ、初めて主体性とかすかな希望を抱けるようになったのである。それだけに、最後は取締当局もこの運動に危険な芽を読み取り、見逃すことをしなかつた。

その農村社の結成から「事件」に至る資料・記録集が三巻からなる「農村青年社事件・資料集」である。

事件の当事者であり、またこの資料集の編集責任者の一人でもある星野準二さんから、この企画を初めて耳にしたのは、もう二〇年近くも前のことになるが、実際の資料収集活動は、それよりもはるかに長い年月をかけて行われた。その集大成として一九九一―一九九四年にかけて貴重な果実に結実したのである。

その長い年月を、相京範昭さんのような若い協力者を除けば、農村社に関係した人たちが丹念に収集・編集活動を行ったことが、本書の第一の特徴である。それは形や外見のスマートさよりも内容の豊かさによく反映されている。もう一つ総合的・立体的な構成になっていることも本書の特徴として印象づけられる。まず資料に基づいて歴史が語られ、ついで教え切れないほど多く刊行された機関紙誌や資料の全貌が解明、紹介される。さらに取調べ・裁判、官庁、新聞社関係の諸資料、研究の論文などが収録され、あわせて全体を飾るように多くの写真が紹介されるが、それらは記録性の意義を大いに高めてくれる（私自身、写真を通して宮崎晃さんをはじめ、お世話になった何人かの人を懐かしく思い出している。それらが地域的にも、拠点であった信州、それに大阪、東京、名古屋などを結ぶ関係で明らかにされるので、農村社の活動の実態が総合的・立体的に理解できる構成になっているのである。

戦前の思想事件でこれほど豊富に資料が収集された例はそうないが、この「資料集」が広く関心を呼び起こし、そしてこれが呼び水となり、これまで確認できていない一部関係者の足跡や裁判記録、あるいは関係農村の生の資料類の新たな発見につながることを願って止まない。

◆小松 隆二（こまつ りゅうじ）

1938年新潟県に生まれる。慶應義塾大学大学院博士課程修了。社会政策論、社会福祉論専攻。現在、慶應義塾大学経済学部教授。著書「大正自由人物話―望月桂とその周辺」(岩波書店)など

ユニークな歴史叙述の作品

西川 祐子（中部大学教授）

「事件」とは何か。一般に話題、問題となるような出来事、さらには訴訟事件となった出来事を指す。事件はただちに論評され、裁定をくだされ、分類され、ときには年表に載る。事件はそれで終わるのだろうか。事件をひきおこした当人も、巻き込まれた人間も、その瞬間、事件の意味をわかっている。わからないから生き残った残り時間をつけて、次世代に問いを残す。

「農村青年社事件・資料集」は、十五年戦争前夜、農村にアナキズムにもとづく自治共同体をつくるべく働き、一九三二年には運動の資金獲得をめざした窃盗の罪で、一九三六年には一転して治安維持法違反の罪で起訴され、二度の裁判、二度の刑の執行をうけた事件の当事者たちが編んだ資料集である。それぞれの戦後を生きたのち資料集編纂にとりかかったとき、かつての青年たちは七十歳、八十歳の年齢となっていた。それから十六年、資料集全三巻が完成した今、農村青年社運動史刊行会代表の星野準二は九十歳である。

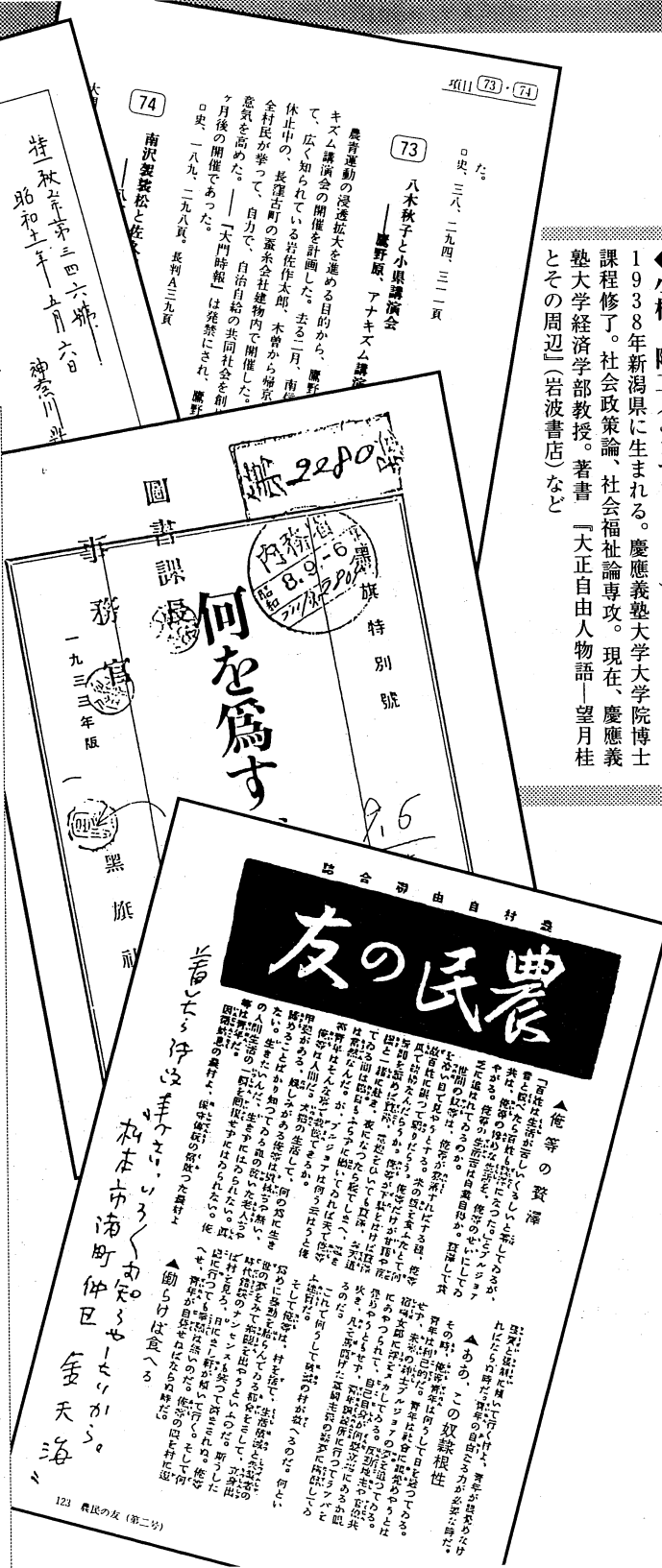
三巻すべて、資料集と称し、そこに編集の主張がこめられている。資料集I、星野が執筆した運動史もまた、解釈や釈明を極力避け、立場を逆にする証人の記憶をつきあわせ、日録の午前か午後かという細部の正確にこだわる。作業時間は資料の収集よりも、記述のそぎおとし、禁欲に多く費やされている。

資料集IIには農村青年社の発行物、関係出版物、通信、膨大な警察調査の一部、裁判記録がおさめられている。活版印刷、ガリ版、手書きの字、行間の書き込み、新聞の写真が複製されてなまなましい。何十年のあいだ信州の農民たちに保存されていた新聞、通信、若い協力者たちが資料室や図書館から探し出した記録など、資料には資料の経歴がある。

資料集IIIには、農村青年社の運動と事件にたいする同時代と後世の人々の論評を集めている。資料集の完成をまたずに亡くなった同志の談話記録、若い研究者の評価や批判がおさめられているかとおもえば、事件を取り調べた特高課警部が戦後に書いた手記というおとろくべき資料もある。読者には敗戦後に特高がいなく恐怖、資金提供を断りながら共感を印象づけた島崎藤村の老獪、彼らの好意を好意としてうけとる記録者の老いてかわらぬ純情を危惧したり批判的に読む自由が与えられている。読者の責任において創造的な解説をすることのできる資料集、いな、それ自身がユニークな歴史叙述の作品である。

◆西川 祐子（にしかわ ゆうこ）

1937年東京に生まれる。京都大学大学院博士課程修了。フランス語、フランス文学専攻。現在、中部大学国際関係学部教授。著書「高群逸枝 森の家の巫女」(レグルス文庫、第三文明社) 初版は新潮社)「花の妹―岸田俊子伝」(新潮社)「私語り 樋口一葉」(リプロボート)



注文カード

流通センター
取扱品

貴店名(貼合)

書名

黒色戦線社
農村青年社事件・資料集
全三巻

ケース入り
セット価格19,570円
(本体19,000円)

注文数

資料集 I

農村青年社運動史・記録

設立メ、ハ、星野三郎の執筆によるもの。運動の出来から活動、検査、公判を経て判決にいたる経過、およびその後の活動をまとめた「事実記録」。

I 農村青年社 その成立と運動の軌跡

成立まで (一九三二年二月)

八木秋子と星野の出会い／宮崎晃と星野の出会い／長野グループと星野初接触／農民に訴ふ添田晋(宮崎晃)／農民に訴ふ(初稿第一編掲載)／鈴木靖之「自由人」創刊……

第一次農村青年社(資金活動)まで (一九三二年四月)

一九三二年春 「農村青年社」創設第一次会合／長野県富県村講演会開催／「農村青年社」社名決定／八木秋子、茨城へ行く／農村運動展開資金は調達された……

一九三二年夏 青年団会報「大門時報」(村公報)発案／「大門村蜂起」探訪／「農民の友」創刊……

一九三二年秋 「黒色戦線」創刊／「農民の友」第二号刊行／「革命新聞」(秘)第二号……

一九三二年冬 「吾国における革命の先行に就いて(秘)」／「村の人達に訴ふ」伊沢八十吉／八木、田代、武器入手に大阪に走る／伊沢グループ、三拠点に分散転居／平松秀雄、宮崎晃検査／目白アジト新設、非合法グループ再結集／戦力、宮崎晃奪還を／スパイに聞知され目白アジト脱出／目黒アジト新設、小野長五郎合流……

一九三二年春 神田路上で星野、黒連の首領前田淳一と遭遇／「信州自由連合」発刊決定／資金班、全員検査される／東京脱出直前、非合法グループ潰滅

解散声明までの経過とそれ以降の活動 (一九三二年四月)

大阪アジト、緊急移転決定／「信州自由連合」創刊／鈴木、船木幾政、山梨県行脚へ／農村運動、大阪、岡山で新展開／「農村青年社」解散声明発表……

II 総括

第一次農村青年社事件(資金活動)検査／二見相沢、日本脱出事件／日本無政府共産党結成発覚／第二次農村青年社事件、長野県検査／第二次農村青年社事件、全国検査／予審開始とその経過／資金事件と免訴問題、予審と検査対立／長野地方裁判所公判／海野高衛、鷹野原長義不敬事件／農村青年社事件被告人、認識二関スル予審調査書(抜粋)／宮崎、星野、鈴木、南沢、三上、二見の事項……

資料集 II

農村青年社運動史・資料

農村青年社の発行物ならびに関係出版物、および裁判の予審決定書、裁判判決書

I 農村青年社発行物並びに関係出版物

農民に訴ふ／農村青年／如何に為すべきか／最近運動の組織及形態についての一提案／吾が国に於ける革命の先行に就いて／信州自由連合ほか

II 黒旗社発行物

黒旗 何を為すべきか

III 農村青年社関係発行物並びに通信

大門時報／通信／南沢製袋松へ、八木秋子より／検査指令および手配通報／農村青年関係者に対する神奈川県警察部長によるもの、ほか

IV 予審・判決関係書証

予審関係書証

藤江誠一 訊問調書／小野長五郎訊問調書／二見敏雄訊問調書／宮崎晃予審終結決定／鈴木靖之、外五名、予審終結決定ほか

長野地方裁判所公判関係(第一審)書証

農村青年社被告判決／信州自由連合社被告判決／三上由三判決ほか

東京控訴院公判関係(第二審)書証

控訴院公判召喚状、ほか

水戸地方裁判所公判関係

岡崎一男、予審終結決定

東京地方裁判所公判関係

草村欽治外二名判決

資料集 III

農村青年社に関する論評、官庁新聞社等その他資料

戦前、大阪地区において自主行動を示した大阪黒旗社の論説「自由連合新聞」等における批判と反駁論議、戦後、アナキズム関係の雑誌に掲載された評論、論説、官権側の記述、資料、および事件当時の新聞報道など

I 戦前II大阪地区を中心とした自主運動起るII論説

大阪「黒旗」無政府共産党「アナキスト」など

II 戦前II農村青年社の実践的理念にむけるII批判・駁論

「自由連合新聞」(八太舟三)大阪「黒旗」(木下茂)／「民衆の解放」(開拓)ほか

III 戦後II農村青年社の運動に対する評価・研究・再検討II論説

秋山清、奥沢邦成、柏木令二、堀田重吉、向井孝三原容子、農村青年社決起五五周年記念研究会報告小冊子、丸尾雅徳、黒木建、竹内康人、香内三郎ほか

IV 官権側II記述・捜査立件資料

手記(館林政治長野県警察部特高課書記)／農村青年社の状況(内務省警保局保安課)／全国検察官合同会議II農村青年社取締方策議事録(長野地方検事局思想検査・黒川英夫述)／秘密結社農村青年社事件に関する功績概要(長野県警察部)／評論II農村青年社事件(信濃毎日新聞)

V 宮崎晃・遺稿および書簡II「革命論・起案」II「藤村の社会思想」(根岸寛)

VI 戦前アナキズム最後の治安維持法違反事件II建達会事件

建達会事件の真相(聞き書き)／鄭哲／予審終結決定書

VII 判決関係書証

東京控訴院判決書／号外

農村青年社事件・資料集 全三巻

| | | | | |
|----|-----|-------|------|------------------------------|
| 各巻 | A5判 | ケース入り | セット | 定価19,570円 (本体 19,000円+税570円) |
| | | I | 284頁 | 定価 6,180円 (本体 6,000円+税180円) |
| | | II | 376頁 | 定価 6,180円 (本体 6,000円+税180円) |
| | | III | 475頁 | 定価 7,210円 (本体 7,000円+税210円) |

なお、別巻として『鈴木靖之アナキズム論集』(『自治民約』ほか二編)を予定

発行 黒色戦線社 (地方・小出版流通センター扱い)
〒372 群馬県伊勢崎市中町字 和田359-5
電話 0270-32-9639

編集 農村青年社運動史刊行会
〒187 東京都小平市花小金井南2-1-20-301 相京方
電話 0424-63-9903

農村青年社事件・資料集

一九三〇年代のアナーキズム農村運動II自主自治コミュニケーション建設運動を当事者が記す記録、発行パンフ・刊行物、官権側の資料等を網羅

二十数年にわたる当事者たちによる資料収集
この資料集自体がユニークな歴史叙述の作品

◆発行 黒色戦線社
◆編集 農村青年社運動史刊行会